熊取町埋蔵文化財調査報告　第49集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXⅡ

平成20年３月

熊 取 町 教 育 委 員 会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヵ所の遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成19年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したものです。今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成20年３月

熊取町教育委員会
教育長　西牧　研壯

例　　言

1．本書は、平成19年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。

2．調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川 淳を担当者として、平成19年４月１日に着手し、平成20年３月31日をもって終了した。
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図)、調査区壁面図を作成し記録した。

3．本書は、平成19年４月１日から平成19年12月29日までの発掘調査成果を掲載する。

4．本書における図面の標高は、T.P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。

5．本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。

6．本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査補助員の参加を得た。
関井澄子、前田公子、森田享子

7．本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目　　次

第１章　はじめに …… 1

第２章　地理的環境と熊取町の遺跡
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　熊取町の遺跡 …… 1

第３章　調査成果の概要
　第１節　大谷池遺跡 07－1 区の調査 …… 5
　第２節　中家住宅周辺遺跡 07－1 区の調査 …… 7
　第３節　野田遺跡 07－3 区の調査 …… 9

第４章　まとめ ……11

第1章　はじめに

平成19年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は32件（平成19年12月29日現在）である。

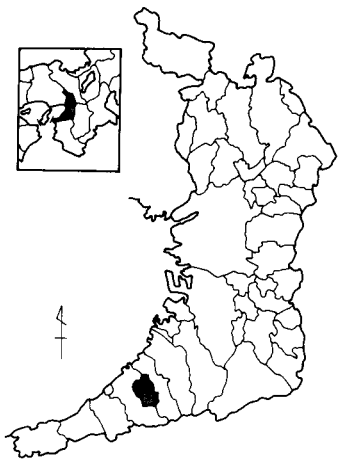
本書では平成19年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査３件の発掘調査の成果についての概要を報告する。

平成19年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺　跡　名	所　在　地	申請者名	申請面積	調査年月日
大谷池遺跡07－１区	桜が丘２丁目18－5、18－3、308－3	遠藤　三夫	155,28㎡	平成19年４月12日
中家住宅周辺遺跡07－１区	五門西２丁目41－1	松本キシエ	167.08㎡	平成19年７月19日
野田遺跡07－３区	野田３丁目1－5	山縣小百合	140.10㎡	平成19年７月31日

第２章　地理的環境と熊取町の遺跡

第１節　地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19k㎡を有する。地形による面積比を見ると、山地41％、丘陵24％、段丘23％、低地12％に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約３分の２を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の４水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることが出来る。

第２節　熊取町の遺跡

遺跡数は平成19年12月現在で43ヵ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とわかる遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和61年から平成２年の間に発掘調査を実施し、畿内第Ⅴ様式を示す土器等を検出して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98－１区の調査で複数の溝が検出され、その中

から飛鳥第Ⅴ様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87－1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡で瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因む集落跡の可能性もある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要文化財降井家書院が所在する降井家屋敷跡などがある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3㎡程度の1箇所のトレンチ内から5,500破片の土師器皿と、巴文軒丸瓦片などが出土している。

熊取町遺跡分布図

泉佐野市
貝塚市
千石堀城跡
七山東遺跡
正法寺跡
白地谷遺跡
大久保D遺跡
大谷池遺跡
大久保B遺跡
大久保E遺跡
大久保F遺跡
大久保C遺跡
大久保A遺跡
梨礼御旅所跡
野田遺跡
東円寺跡
中家住宅
中家住宅周辺遺跡
小垣内遺跡
小垣内中遺跡
小垣内西遺跡
金剛法寺跡
大宮遺跡
久保城跡
久保A遺跡
五門北古墳
五門古墳
五門遺跡
大浦遺跡
大浦中世墓地
久保B遺跡
城ノ下遺跡
高蔵寺城跡
鳥羽殿城跡
朝代北遺跡
山ノ下城跡
来迎寺遺跡
墓ノ谷遺跡
花成寺跡
下高田遺跡
池ノ谷遺跡
成合寺遺跡
雨山城跡
0
2km

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1	来迎寺遺跡	集落跡	鎌倉～室町	宅地	平地	5,000㎡	土師器・瓦片等検出
2	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	62,300㎡	
3	大宮遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000㎡	
4	東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平地	48,000㎡	瓦・土器多数出土。寺院の形態は不明
5	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800㎡	
6	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵腹	69,000㎡	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
7	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800㎡	土塁・堀切等の遺構を確認する
8	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	45,300㎡	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
9	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300㎡	土師器片等が検出される
10	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900㎡	宅地開発により消滅
11	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500㎡	宅地開発により消滅
12	大浦中世墓地遺跡	墓地	室町	墓地	平地	18,400㎡	享徳四年(1445)銘の五輪塔地輪等出土
13	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	86,300㎡	飛鳥期の溝から須恵器・土師器、他瓦器多い
14	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	6,800㎡	
15	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400㎡	
16	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300㎡	五門・紺屋共同墓地
17	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	55,000㎡	
18	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000㎡	毘沙門堂跡、現在消滅
19	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100㎡	大森神社神宮寺
20	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600㎡	
21	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	32,000㎡	
22	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000㎡	
23	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000㎡	屋敷地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100㎡	
25	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	57,000㎡	
26	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800㎡	弥生末～古墳初期の遺物
27	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400㎡	奈良～平安期の河川跡検出
28	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600㎡	
29	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500㎡	
30	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000㎡	天正年間(1573～92)の雑賀衆徒の城跡
31	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200㎡	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
32	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	9,200㎡	
33	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	4,900㎡	13～14世紀の瓦器等検出
34	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	4,400㎡	建物跡、8～14世紀の土器
35	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900㎡	弥生末～古墳初期の遺物多数
36	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	5,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
37	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300㎡	近世の陶磁器多数
38	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～室町	宅地	平地	60,000㎡	13～14世紀の瓦器等検出
39	七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000㎡	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
40	小垣内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600㎡	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41	大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436㎡	石鏃・平安頃の建物等検出
42	野田遺跡	集落跡	縄文～江戸	宅地	平地	310,000㎡	縄文期の石器・古代～近世の集落
43	小垣内中遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,500㎡	中世の集落
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地		国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地		国指定重要文化財
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉～室町	宅地	丘陵腹		国指定重要文化財

第３章　調査成果の概要

第１節　大谷池遺跡07-1区の調査

大谷池遺跡について

熊取町で最大級の範囲を有する大久保Ｂ遺跡が存在する駅前から、大阪外環状線に沿って東の方向へ、かつて比較的規模の大きな寺院があったとされる野田地区へ向かう途中の北側の丘陵上には「大谷池」という面積23,000㎡程の池が存在している。大谷池は町内の多くの池と同様、近世には農業用溜池として利用された池で、西側には現在も急峻な堤が残されている。池の西側以外の周辺は宅地化が進んで、池岸まで住宅が迫っている。池の西側同様に南側の下域に水田が営まれていることから、元来は南側も大きな堤状を呈していたものと考えられる。また、大谷池は現在両端が広がった分銅のような形状をしているが、当初は横方向に長い長方形に近い形状だった可能性がある。北側と南側の住宅地の造成で、池を埋め立てるような拡幅をして池の形状を変えたものと考えられる。大谷池遺跡は1970年代後半から1980年代にかけて実施された分布調査の際に、池岸で須恵器の破片が採取されたといわれるなど、須恵器を生産した窯跡が発見される可能性を含む遺跡である。しかしながら個人住宅の建築に伴って実施した近年の確認調査においては、古墳時代ばかりか中世の埋蔵文化財は一切出土したことがなく、池の築堤に伴うと考えられる層から近世陶磁器片が少量検出されただけである。

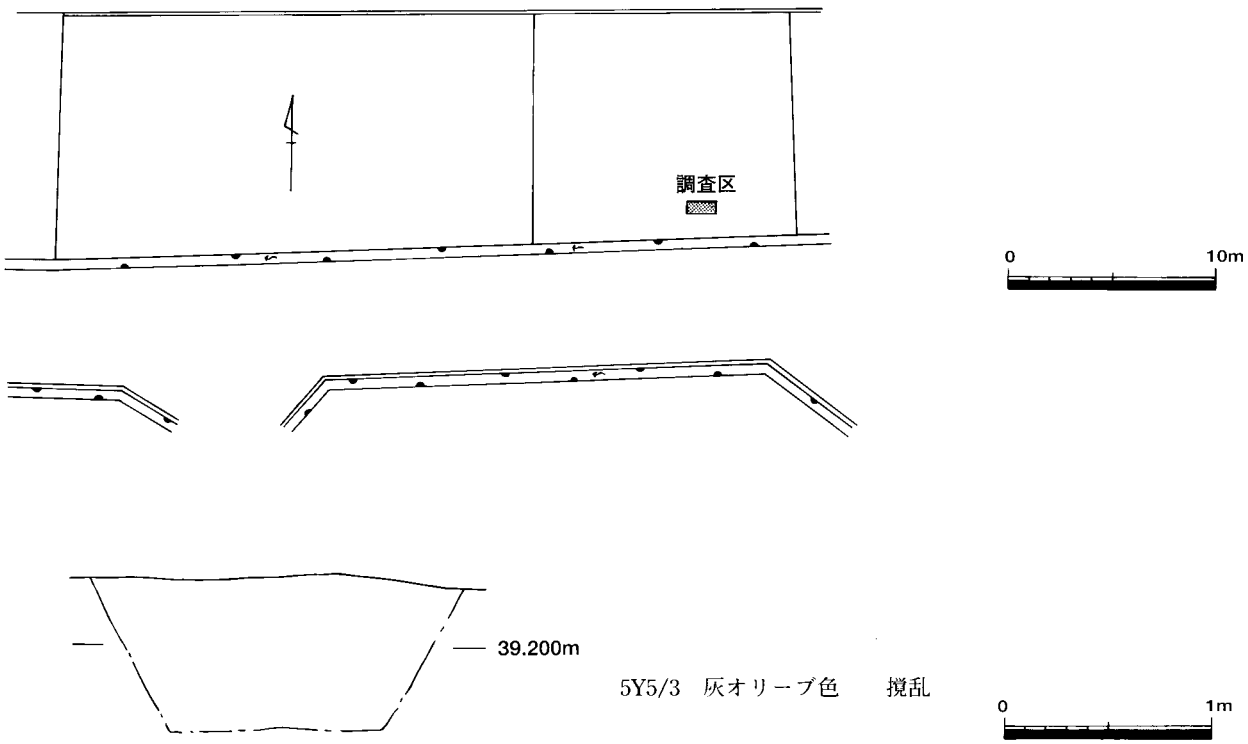
調 査 地　桜が丘2丁目18－5、18－3、308－3
調査期間　平成19年4月12日
位置と環境

調査地点は遺跡の南西端、大谷池の南岸に位置する。申請地は現在大谷池に南側から張り出した半島状の地点に営まれている桜が丘の住宅地の一角に所在し、この付近が大谷池の池岸に大幅な盛土を行って造成された場所であると推測される。

調査の内容と結果

機械掘削による調査を実施した。地表面下－1.0m程掘削しても、旧来の自然地層には届かず、近年住宅地を造成する際に埋め立てられた盛土を検出するにとどまった。また近年の住宅地造成にかかわる産業廃棄物を除いて各時代の遺物等は一切確認しなかった。調査区を設定した場所の地下深くに、かつての大谷池の堤防の北斜面部分が存在しているかもしれないが、今回は個人住宅の建設であることから、深くまで調査掘削せず終了した。

平成12年度の大谷池遺跡00－1区や00－2区の調査では、既に埋め立てられてしまった大谷池の旧堤防、もしくは旧来存在した丘陵地の地層が検出されている。今回の07－1区とその2件の調査は数十mほど離れているものの、いずれも大谷池南岸の同じ緯度付近に位置するものであることから、大谷池南岸の旧堤防や丘陵部の地形が検出される可能性があったが、今回は近年の造成の際の盛土しか発見できなかった。この地域の埋蔵文化財調査で期待される須恵器の窯跡の発見については、今回の調査地点においても手がかりを得るには及ばなかった。



第２節　中家住宅周辺遺跡07－１区の調査

中家住宅周辺遺跡について

中家住宅周辺遺跡は平成8年11月熊取町五門地先における水道管設置工事の際に、近世の陶磁器破片が発見されることにより新規に設定された集落遺跡で、重要文化財中家住宅の周辺に分布していると考えられる中近世の遺構と遺物を主な対象とするものである。重要文化財中家住宅では主に公共事業に伴って確認調査・本調査を数度実施し、近世を中心とする埋蔵文化財を多数検出している。微量の瓦器細片を除けば、大部分が近世の陶磁器と大量の瓦片であり、中家住宅の年代を推測する好資料である。現存する文献資料などからは、中氏は中世以来熊取地域の有力な一族であったことが窺われ、近世に至って岸和田藩下で筆頭庄屋を勤めるなどの旧家である。

現在の重要文化財中家住宅は主屋と表門、唐門が重要文化財の指定を受けており、主屋は入母屋造り、瓦葺き、妻入りで、周囲に本瓦葺きの庇をめぐらせる。独立性の強い土間は近畿地方でも最大規模のもので、寺院の庫裏や武家の台所を想わせる。主屋は江戸時代初期の所産と推定されるが、上間に大きく張り出す架構形式のダイドコロと、踏み込みのあるナンドとザシキ周りの喰い違い三間間取り、柱の省略の多い居室部などは中世の雰囲気を残す。

残された江戸期の絵図面から、現在の重要文化財中家住宅は江戸時代の最盛期の屋敷地に比して半分程の面積に狭まったことが推測され、また屋敷地の周囲には中家に所縁のある人々の集落があったのではないかと推測される。これを裏付けるように中家住宅周辺遺跡から出土する埋蔵文化財には近世の陶磁器類と瓦片が最も多く、中家住宅敷地内から出土する

遺物と極めて類似性が強い。

現在重要文化財中家住宅の周辺は一般の民家や商店が建ち並んでいる。中氏が熊取を離れた後は、屋敷地に郵便局や郷土資料館、倉庫、公園などが設置されたため、調査をする以前に遺構面が破壊された場所が多いので、比較的遺構面の破壊が軽微な中家住宅の周辺での発掘調査の成果に期待する部分も少なくない。中氏にまつわる伝承を中心として熊取の歴史が語り継がれている現状に対して発掘調査の成果という客観的な資料によって考証して行くことができるだろう。

調 査 地　五門西2丁目41－1

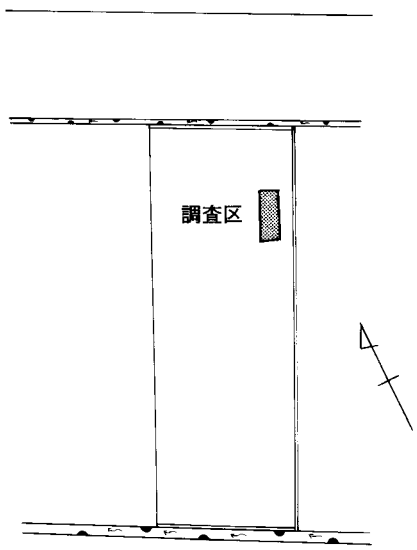
調査期間　平成19年7月19日

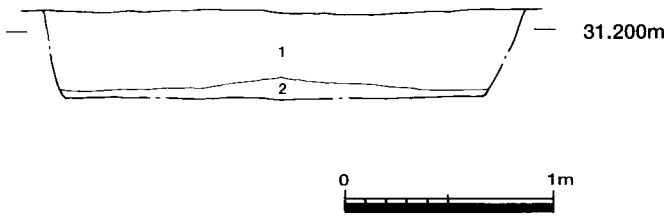
位置と環境

調査地点は、中家住宅周辺遺跡の中央部東寄りに位置し、申請地のすぐ北側に旧大阪外環状線（国道170号）が東西方向に走っている。中家住宅周辺遺跡に指定している範囲は、重要文化財中家住宅を中心として広がる住宅地であり、この付近は起伏の少ない概ね平坦な地形を呈している。今回の申請地に対して、国道170号を隔てた北側一帯は、これまで重要文化財中家住宅に関連があるものと推定される近世の遺構や遺物の出土が豊富に出土しており、申請地のある国道南側にも近世集落の遺構と遺物が埋蔵されているものと考えられる。

調査の内容と結果

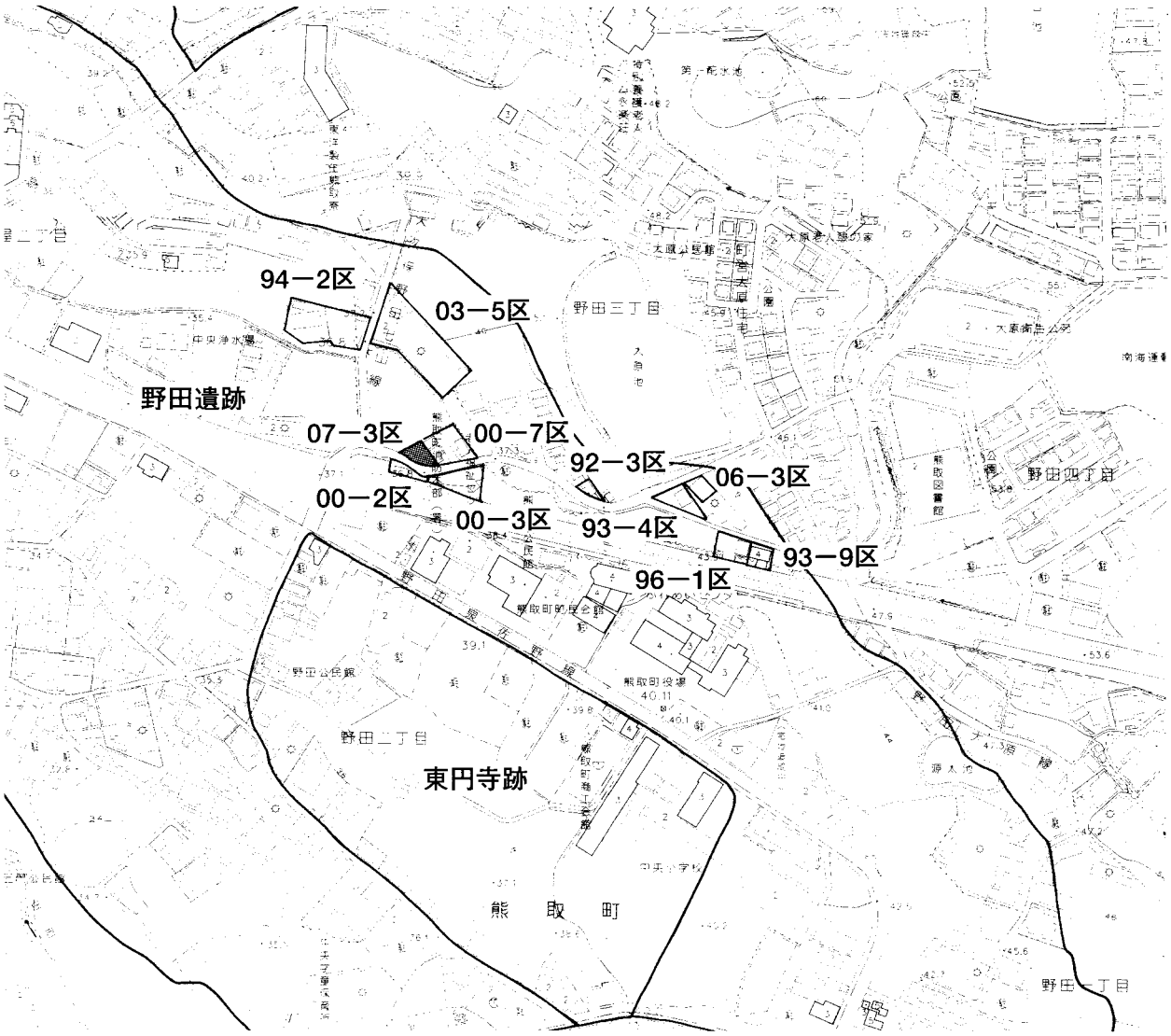
調査は機械掘削によって実施した。建築物の基礎掘削に合わせて地表面－0.4mまで掘削し、現在の宅地を造成する際に他から運ばれてきた土層①②を検出するに止まった。土器や遺構などの検出は一切見られなかった。この層以下は今回の個人住宅の建設工事の掘削深度の対象外となり、現地で開発者と協議の上で掘削調査を行わなかったため不明のままである。





1. 10GY4/1　暗緑灰色　　撹乱
2. 10YR7/8　黄橙色　　粘質土

第３節　野田遺跡07－3区の調査



野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260, 000㎡にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の45, 000㎡程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、早くより寺院跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、その範囲が飛躍的に拡大していったものであった。野田地域全体における調査では、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も多く、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相となってきたため、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、より広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割した。

野田遺跡の範囲内の町立中央小学校で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田集落内の調査で奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測される。また調査の成果から、集落は中世初期頃に非常に繁栄していたことも推測される。集落は室町時代の中期頃より減じていったことも窺われ、多くが農地に変わっていったものと考えられる。

東円寺について

東円寺（東耀寺）は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀に著述されたとされる「葛城峯中記」に「野田山…」の記述がされる寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法灯が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された「先代考拠略」によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したとされるが、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになったという。

過去の発掘調査で出土した完形品に近い複弁蓮華文軒丸瓦や均等唐草文軒平瓦は熊取町指定文化財に指定されている。

調 査 地　野田３丁目1－5

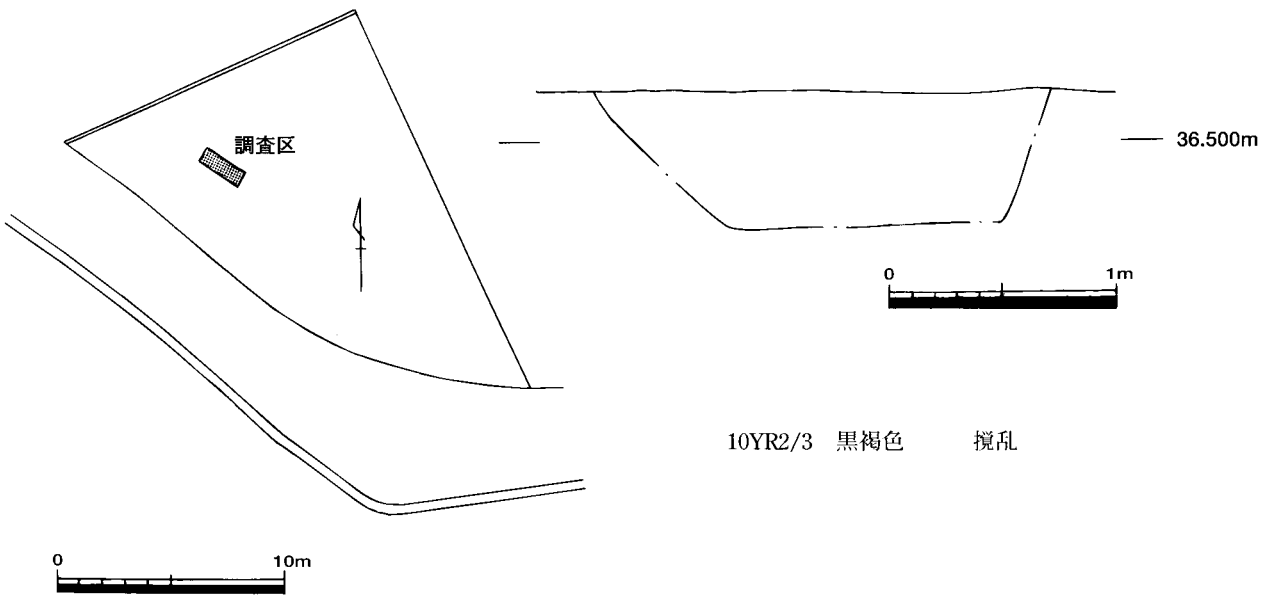
調査期間　平成19年７月31日

位置と環境

調査地点は広大な野田遺跡の中央部やや北寄りにあり、大阪外環状線の北側のかねてより水田が営まれていた丘陵裾地域に当る。申請地の周辺について、この南側30m程の場所で昭和62年に大阪外環状線の新規建設工事の際に中世の掘立柱建物１棟が検出されている例があるが、申請地の東と南隣接地における比較的小規模の土木工事に関する平成12年度の３件の確認調査の際には、埋蔵文化財は一切検出されなかった。これらの場所はかつて東円寺が営まれていたと考えられる熊取町役場や中央小学校付近から、北側に向かって小さな谷状の地形一つを挟んだ丘陵裾部に相当しているが、これらの調査結果からすると、過去に住居や集落が営まれた可能性が低い地域と考えられる。

調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施した。地表面の下はこの宅地を造成する際に他から運ばれてきた造成用バラスを多く含んだ土が厚く堆積しており、この層以下については、今回の個人住宅の建設工事の掘削深度の対象外であり、現地で開発者と協議の上で掘削調査を行わなかったため、どのような層序を示すのか不明のままである。



第4章　まとめ

大谷池遺跡

大谷池の南岸ではこれまで、個人住宅の建替えに伴う調査を数度実施しており、過去の堤防の痕跡を検出するなどしていた。今回の調査地点は、堤防の存在が推定される位置よりもさらに池の中央寄りに張り出した半島状の住宅街であるが、調査の結果、自然の地山は検出できず、大幅な盛土だけが見られた。大谷池の南西側に広がる住宅地を造成した際、堤体を埋め立て、さらに池側に大幅な盛土の造成を行って住宅地を広く確保したものと考えられる。熊取の中心地域にも数えられる大久保地区の北側に存在する町内最大級の溜池である大谷池の築造年代と、かつて池岸で採取されたという須恵器から推測されている窯の有無の確認については、今後も引き続き調査を重ねて探っていきたい。

中家住宅周辺遺跡

江戸時代に岸和田藩の七人庄屋の筆頭であった中氏の屋敷の表門のある南正面側には、中氏に関連する施設・建物群の存在が想定されていたが、今回の調査では埋蔵文化財を検出することができなかった。この場所は近年まで水田が営まれていたことが、写真資料からわかっており、戦後より宅地化され、現在の地表面の高さまで造成されたことが知られている。今回検出した撹乱土層の中に散見される瓦礫の中にも、近世を示す陶磁器や瓦の破片も一切含まれていないことから、屋敷の表門のある正面やや東寄りに当る今回の調査地点は、江戸期より水田が営まれるなどしており、施設や建物が存在していなかった可能性が高いと考えられる。

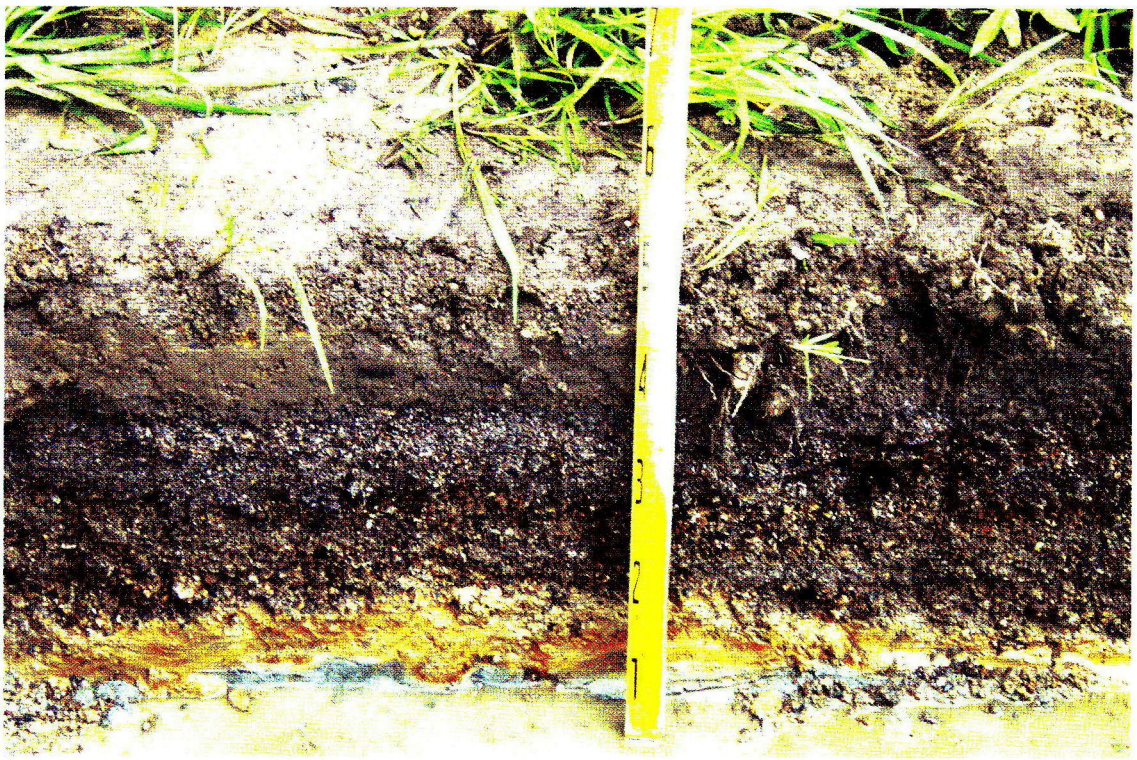
野田遺跡

今回の07－3区の調査結果とその周辺でのこれまでの調査結果から、野田遺跡の北端区域の性格にある程度は迫ることができる。現在の大阪外環状線（国道170号）が敷設された場所は、かつて寺院が存在した野田の平坦地の北側の浅い谷になっていたところで、今回の07－3区を実施した地点はこの谷の北側に存在する丘陵地帯の裾部分に相当する。この緩斜面を有する丘陵地帯で実施した過去の調査では埋蔵文化財が検出された例はなく、今回の07－3区の調査でも埋蔵文化財は何ら検出されなかった。大阪外環状線ができるまでたくさんの水田が存在していた谷の中では、中世にこの谷を埋め立てる造成を施して耕作地を広げていった痕跡が明瞭に認められており、この中世に行われた耕地造成の以前に関しては、焼土を伴う土壙墓が検出されたことがある。この土壙墓が果たして野田の寺院に関係があるのかは今のところ不明であるが、同様の土壙墓は寺院跡の東側でも数基検出されており、それぞれの土壙どうしの関連性を指摘することもできるだろう。いずれにしても、大阪外環状線より北側は、かつて熊取町役場前に存在した寺院や集落とは一線を画した区域の可能性が高いと考えられる。

大谷池遺跡07－1区　全景

大谷池遺跡07－1区　壁面

中家住宅周辺遺跡07－1区　全景



中家住宅周辺遺跡07－1区　壁面

野田遺跡07－3区　全景

野田遺跡07－3区　壁面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書
巻次	XXⅡ
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第49集
編著者名	前川　淳
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590－0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号
発行年月日	西暦　2008年3月

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積（m²）	調査原因
大谷池遺跡（おおたにいけいせき） 07－1区	大阪府泉南郡（おおさかふせんなんぐん） 熊取町桜ヶ丘（くまとりちょうさくらがおか）	27361	15	34° 23′ 10″	135° 21′ 03″	20070412 20070412	2.0	個人専用住宅建設
中家住宅周辺遺跡（なかけじゅうたくしゅうへんいせき） 07－1区	大阪府泉南郡（おおさかふせんなんぐん） 熊取町五門西（くまとりちょうごもんにし）	27361	17	34° 23′ 48″	135° 21′ 05″	20070719 20070719	3.0	個人専用住宅建設
野田遺跡（のだいせき） 07－3区	大阪府泉南郡（おおさかふせんなんぐん） 熊取町野田（くまとりちょうのだ）	27361	42	34° 22′ 56″	135° 21′ 25″	20070731 20070731	3.0	個人専用住宅建設

所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大谷池遺跡07－1区	散布地	古墳～江戸	なし	なし	
中家住宅周辺遺跡07－1区	集落跡	中世～江戸	なし	なし	
野田遺跡07－3区	集落跡	縄文～江戸	なし	なし	

熊取町埋蔵文化財調査報告　第49集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXII

発行日　平成20年3月

発行・編集　熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷　小笠原印刷（株）

大阪府泉佐野市新安松2丁目4－1